蜆蘇の業相

二編

E 24
187

縮模様 蛉籠葉相 二編 上

寄贈
大正十三年九月十三日
高[illegible]氏

B4115

柳水亭種清作

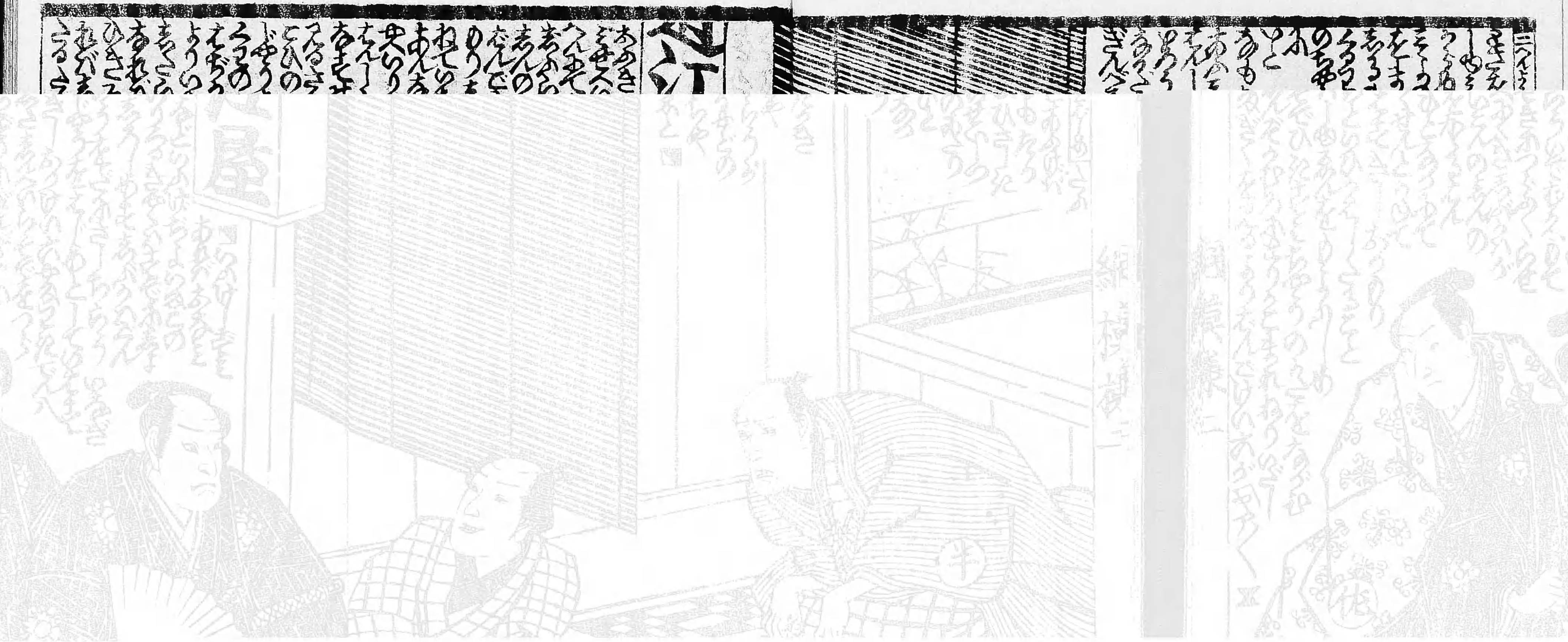
此草紙提燈紋尽と謂ハ
享保十四年の冬　是ぞ此亮七様の
玉葉が二年を思ふ　遠著手に掛り
図しける提燈紋仲の巷の茶屋都て
楼端に寒夜を懸てらし　願立年より提燈に
古びて其趣の奥にて　のゝ椀玉よ金よ呈
なるまする七夕の名にも重編出まし　正本の提燈紋
を提灯に　新巻の自由に優る伴五智　桜
本説大弥栂を二篇　桜木の小桙史に編綴る
網模様の実物七浦を撰　きせきん

柳水亭種清志るす

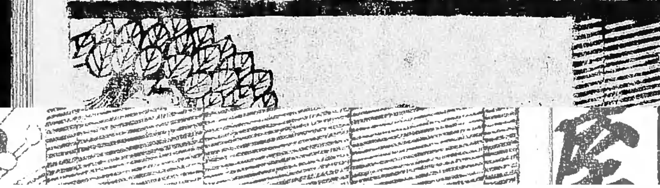
ひのみまつり
提燈の
きらく
相
二篇
下

中卍楼弥

中卍楼



つゞき
どれ／＼と
して
ん
の

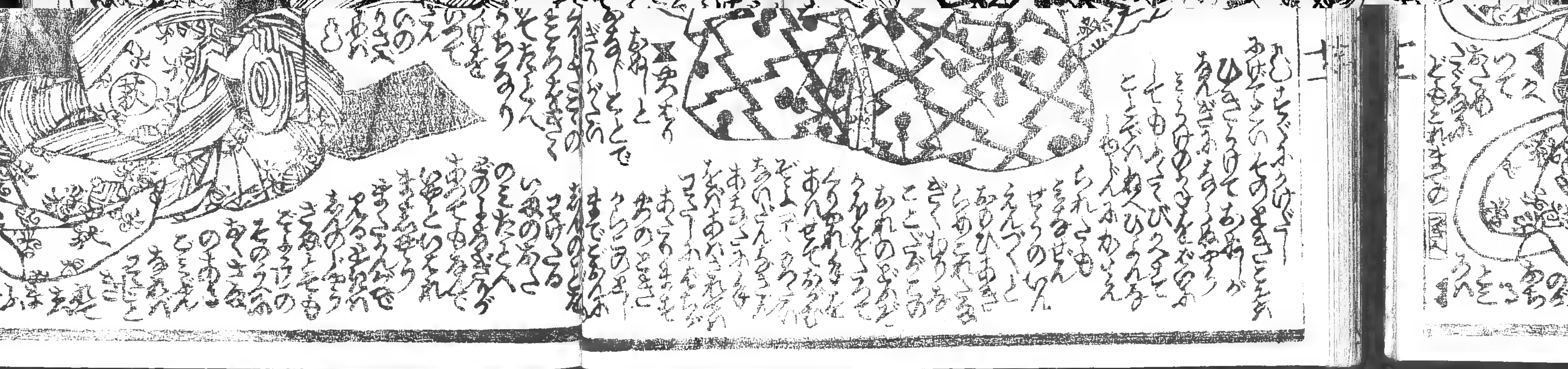


江

江
近

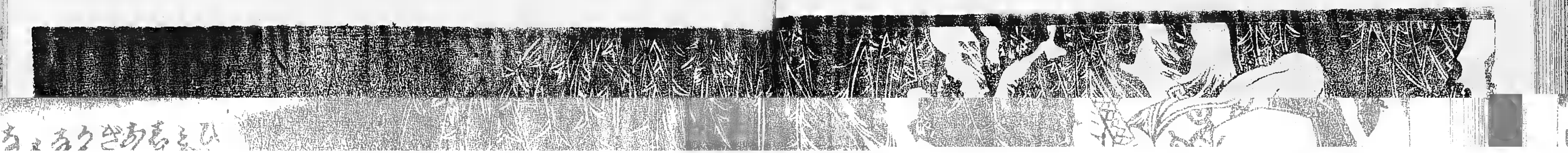
〈つゞき〉ぜんせいの
あつてありや
くとれむき
のふとおちこみ
きらあくまれ
いふでもござれ
ざりますそれゆゑ
[illegible]

崎
弥
玉



[illegible]

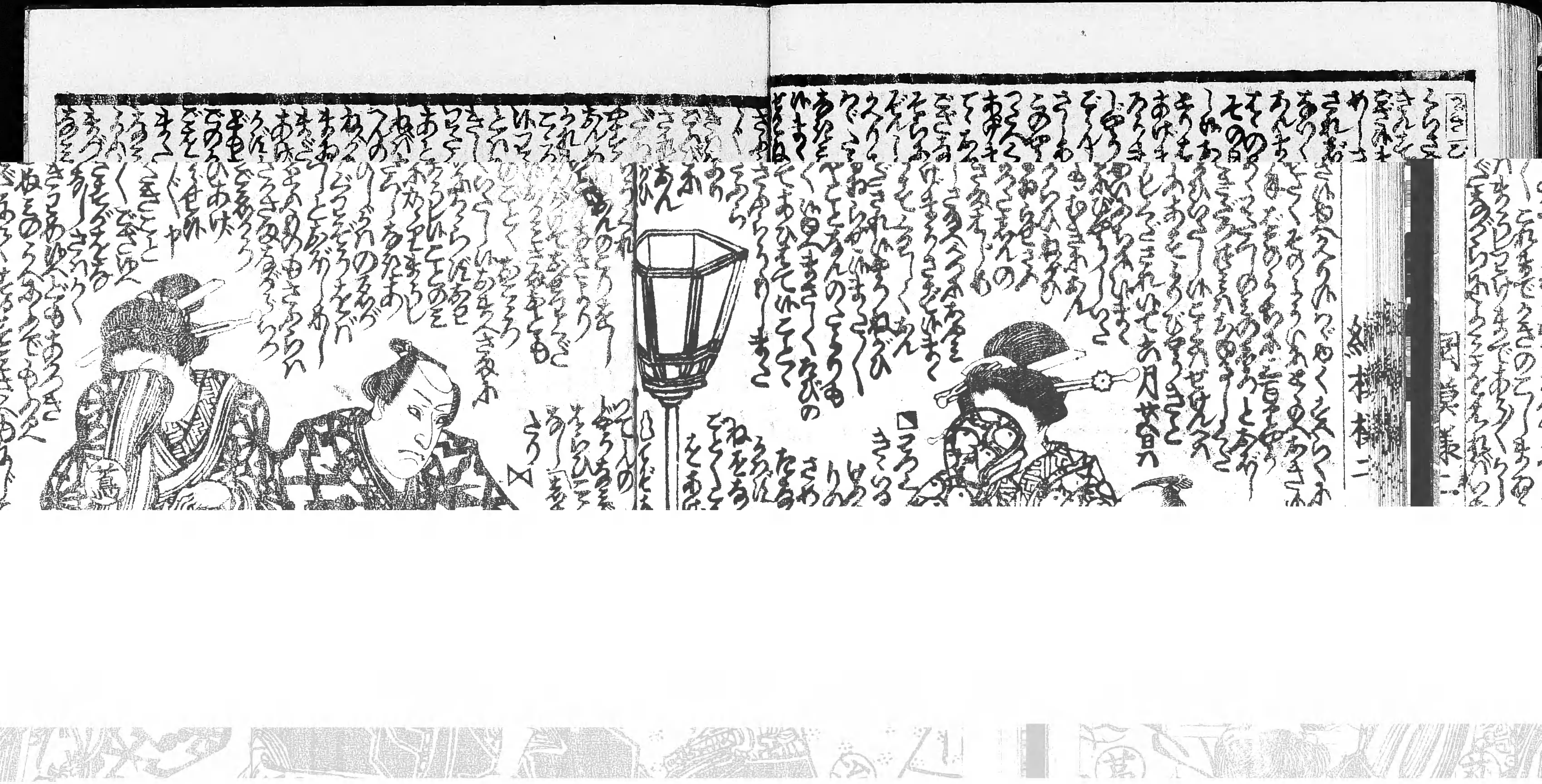
[illegible]



[illegible]

にて
さてどふか
まうく
どうぞうつ
みせ申
さぞもうし
あすとまく
ころうを
ゆうどきか
かしめ
ゆきんが出る
あたかぎりの
なまずりて
せめてあく
おひえて
すゑをせ
かくの
つけと
まくろ
きれ
この
あき

[illegible]



（つゞき）

柳水亭種清綴
新
梅蝶楼国貞画